

【第20回聖路加看護学会学術大会：シンポジウム】

教育と実践のハーモニー

座長：菱沼 典子¹⁾，柳橋 礼子²⁾

本大会では、看護学生が新人ナースとして働くまでの間に、極端な断崖絶壁の前で滞ることなく、歩み続けられるような道程を開発することを目指して、メインテーマに「教育と実践のハーモニー」を掲げた。シンポジウムは本大会の締めくくりとして、教育の側と実践現場の側とがそれぞれの役割をもち、協働して後輩の育成というハーモニーを生み出すには、どんな考え方があり、どんな工夫があるのかを追求したいと企画されたものである。

4人のシンポジストから、現状と取り組みについて発表していただき、その後会場の参加者との活発な質疑応答があった。

北里大学病院副院長・看護部長の別府千恵氏には、北里大学病院と北里大学看護学部による「教育指導者の養成」を目的とした「横断的人事システム」としての人事交流を発表していただいた。

川崎市立多摩病院看護副部長の佐々木菜名代氏には、複数の教育課程からの実習を受けている実情を踏まえて、臨床指導者と教員との連携や、実習目標到達のための実践について発表していただいた。

日本赤十字看護大学看護教育学准教授の西田朋子氏に

は、教員の立場で実習にかかわる施設の指導者との連携や、4年生・大学院生を対象にした看護教育者の育成プログラムに関する報告をしていただいた。

最後のシンポジストは昭和大学保健医療学部看護学科講師であり、昭和大学病院看護部次長という立場の福地本晴美氏で、すでに行われている臨床教員の導入過程とその成果について報告していただいた。

発表後の質疑応答とディスカッションでは、基礎教育と臨床側が連携するシステム構築の可能性と実現性について、また臨床実習を担当する看護職員の教育と育成について、そして臨床教員という立場で学生の実習評価に責任をもつことについて意見交換がなされた。

教育機関と実習を受ける施設間でのコミュニケーションが、学生の学習効果に影響を与えること、また実習現場の看護職や教員のやりがいにも影響することは、それぞれが実感しているところである。今回のシンポジウムで、実習施設と教育機関には多様な連携体制が模索、実行されていることが共有できた。これらを参考に、各実習施設、教育機関に合った方策が工夫されることを期待するとともに、学生指導体制の評価が今後の課題であることが示唆された。

1) 聖路加国際大学看護学部

2) 聖路加国際病院